

目的 家計の中にしめる教育費の割合は、増加の一途をたどっている。なかでも家庭教育費といわれる、いわゆる塾、おけいこ等の実態は不明な点が多い。そこで幼稚園、小学校、中学校、高校の保護者及び大学生に、教育費に関する実態調査を行ない、今後の生活設計の大きな柱である教育費について、一試案の作製をめざすものである。

方法 調査対象の分類の基準は、地域差、公立・私立別、普通科・専門科、短大・4年制大学16校とした。幼稚園175名(回収率69.7%)小学校616名(84.7%)中学校339名(79.1%)高校438名(90.9%)大学生500名(60.8%)合計2068名である。調査期間は1982年7月1日～9月30日まで、質問紙による留置調査法。

結果及び考察 1. 学校教育費 幼稚園では入園時の支出として公立幼(A)12,119円、私立幼(B)22,665円、毎月の支出A 6,902円、B 12,983円で私立は公立の2倍の費用がかかっている。一才平均月収はA 303,303円、B 338,008円でA 4.3% B 20.2%である。小学校では入学時における支出をみると、64,337円とかなりの費用である。もっとも机など中学、高校に進んでも利用できるものも含まれている。毎月の支出は6026円で学校差、地域差はみられなかった。中学では直接支出金1,633円、間接支出金5,732円計7,365円である。高校は公立普通科22,012円、専門科17,757円、私立22,153円である。2. 家庭教育費 塾費の最高は高2の男子で収入に対する比率は0.75である。ついで中1女子0.64である。おけいこごとば小学校女子がもっとも盛んで4年生は収入に対する比率は1.17と最高である。